

平成26年度 地域療育等支援事業 実施報告

(社会福祉士 市川 香織)

在宅心身障害児(者)やその家族の地域生活を支援することを目的とし、身近な地域で療育指導、相談等を受けていただけるよう、東京都から受託、実施している事業です。平成26年度の実施状況を報告します。

【訪問療育等指導事業】

今年度は実施がありませんでしたが、この事業では家庭での訓練方法、姿勢保持、日常生活介助の工夫などのご相談に、専門職が家庭を訪問して応じています。

当センターにおける地域療育等支援事業は、平成9年度より18年目にあたり、周辺地域へ広く周知されてきたことやご利用者のエリアが拡張していることにより、南多摩5市以外からもお問い合わせをいただくことがあります。遠方からのご相談には、来所いただいでのご相談対応やお近くの相談機関等をご紹介させていただくこともありますが、今後ともスタッフ一同尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

*** 本事業のご利用については、本誌4面をご覧ください。**

【外来療育等指導事業～療育相談～】

障害を持つかた、または発達上のご心配のあるご本人、あるいはご家族のご相談に専門職が個別に応じる事業です。発達に関するお困りごとが生じ始め、療育についてまだ入り口にいらっしゃるかた、迷われているかた等から、年齢でいえば就学前、特に集団生活が始まる年少～長時期のお子さんについてご相談が多く寄せられ(表①)、今年度は29件のご相談に心理やST、SWが対応しました(表②)。ご利用者の主な居住地は多摩や八王子で、その他稲城市からも複数ご利用がありました。(表③)。

※PT：理学療法士 OT：作業療法士
ST：言語聴覚士 SW：社会福祉士

表② 療育相談の対応職種延べ数(人)

医師	看護師	PT	OT	ST	心理	SW
0	0	0	0	7	22	29

【施設支援一般指導事業】

地域でお暮らしの障害のあるかたを受け入れている通所施設の職員様のご相談に応じる事業です。現場での対応の工夫、配慮などをご助言させていただいています。スタッフが施設へ出向く訪問相談と、施設のかたに当センターへお越しいただく来所相談の方法があります。

表① 療育相談の対象児(者)年齢(件)

0-2歳	6
3歳 年少児	2
4歳 年中児	4
5歳 年長児	7
6-8歳 (小・低学年)	9
9-11歳 (小・高学年)	1
12-14歳 中学生	0
15-17歳 高校生	0
18歳以上	2
合計	29

表③ 療育相談の相談者居住地域(件)

多摩	八王子	町田	稲城	日野	その他	合計
12	11	1	5	0	0	29

H26年度は91か所の施設に対し、延べ128件のご相談に対応させていただきました。例年夏前後～秋頃の実施が多いのですが、今年度は年度始めと行事の多い秋口の実施が少なく、夏休み前後と年度末に実施が集中しました。(図①)施設種別では小学校、保育園、幼稚園の順でご利用が多く、例年と変わらない傾向でした。(表④)。同施設から複数回のご利用希望を頂戴することもあります、多くは年1～3回程度のご利用に留めていただき、多くの施設に広くご利用いただけますようご協力をお願いしております。併せて各施設において、助言・指導させていただいた内容を、職員様の間で(また時にはご本人・保護者の方々と)共有していただくことや、さらには他の児童・生徒、利用者様へ活用・応用したり、クラス運営として集団全体に導入したりする等、“その後につなげていく支援”を心掛けていただくこともお願いしております。職種別では心理職やST、次いでOTの対応が多く、発達全般やコミュニケーション、ことばや口腔機能の発達のご相談に加えて、運動機能に関する(体幹保持や運動が、集中力や手先の微細運動に影響することも含めた)ご相談も多く寄せられました。(表⑤)

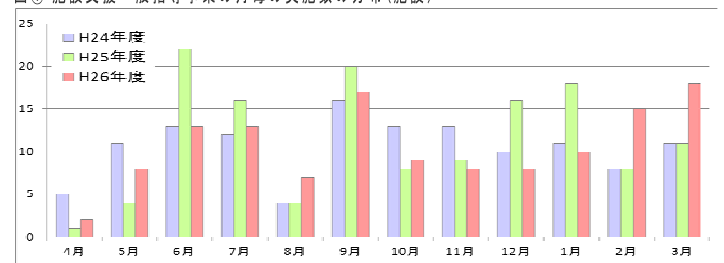
表⑤ 施設支援一般指導事業の派遣職種延べ数(人)

医師	看護師	PT	OT	ST	心理	SW	その他
3	1	16	35	43	69	123	1

表④ 施設支援一般指導事業の施設種別・市別毎の実施数(件) / 実:実施施設数、延:延べ実施数

	多摩市		八王子市		町田市		稲城市		日野市		その他		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
特別支援学校	1#	2#	1#	1#	2#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	3#	5#
保育園	11#	17#	4#	6#	7#	1#	1#	3#	3#	2#	2#	27#	36#	
幼稚園	6#	11#	4#	5#	2#	4#	0#	0#	1#	2#	0#	0#	13#	22#
小学校	10#	18#	9#	14#	3#	3#	3#	3#	4#	4#	2#	2#	31#	44#
中学校	4#	5#	5#	7#	0#	0#	1#	2#	1#	1#	0#	0#	11#	15#
障害児(者)機関	1#	1#	2#	2#	1#	1#	0#	0#	1#	1#	0#	0#	5#	5#
その他(学童含)	0#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	0#	1#	1#	0#	0#	1#	1#
合計	33#	54#	25#	35#	13#	17#	5#	6#	11#	12#	4#	4#	91#	128#

図① 施設支援一般指導事業の月毎の実施数の分布(施設)



第14回 島田療育センター 公開シンポジウム

自分を好きになろう

～これからの学習の場と発達障害～

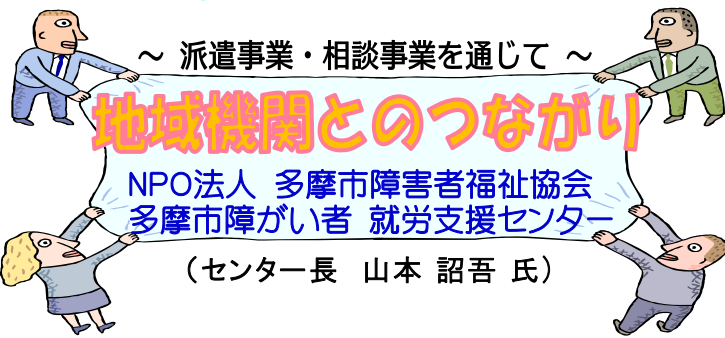
2月11日、多摩市・多摩市教育委員会・八王子市・八王子市教育委員会後援、読売光と愛の事業団後援・助成、草の根事業育成財団助成をいただき、ベルブホールにて第14回島田療育センター公開シンポジウムを開催しました。今回は、「自分を好きになろう～これからの学習の場と発達障害」と題して、発達障害や環境との不調和という課題を抱え、従来の教育環境だけでは対応が難しいお子さんへの教育や必要に応じた居場所、集団の保障をどのように考えていくか、ということテーマにしました。

基調講演は東京都発達障害者支援センター長の山崎順子氏より「発達障害を持つ子どもの地域での育ちを考える」と題し、子どもの学びの場は外部専門機関との連携が重要で、専門機関では専門医療や福祉の見地から学習障害に適した指導が求められていることや、大人は「子どもの良いところ探し」をし、本人と歩み寄ることが大切であると語られ、『支援はライフステージを通した一貫性が求められ、「温かい心と冷静な頭」で子どもを理解し接してください』と最後に結ばれました。

話題提供として、東京都立秋留高等学校副校長 高橋和久氏より「進路指導・進路先選定における支援の実際」について、生徒を力づけ、一人一人の潜在的な能力を伸ばすことを目指した「エンカレッジスクール」の取り組みを紹介いただきました。卒後という出口を見据え、退学させない支援・教育の

ために校内の風通しを良くし、教員間で共通認識をもって取り組む体制づくりが重要との指摘がありました。星槎国際高等学校立川学習センター副センター長 石田博彰氏は、「星槎国際高等学校 星槎中学校 共感理解の取り組みと実践報告」として、一人ひとりに合ったカリキュラムや通学スタイルを選択できるよう、本人とその保護者に共感・理解しながら支援する学校の取り組みをご紹介いただきました。また身近なことから仲間や地域との繋がりを学び、世界観の再構築や他者理解の感性を培うこと、生かし生かされてる中で自分の役割の認識することを目指しているとのことでした。最後に当センター副院長 有本潔より「発達支援センター『セブクロバー』を中心とした取り組み」について、医学の見地からみた各ライフステージの発達障害の特徴や支援の枠組み、当センターでの本人への働きかけや教育現場への支援について報告しました。

最後のディスカッションでは質問が途切れず、本テーマへの関心の高さと自尊感情を高め自分を好きになれる支援が重要であることをあらためて実感し、共有できたことは幸いです。



多摩市障がい者就労支援センターは、東京都の事業である「区市町村就労支援事業」を多摩市より委託を受け行っています。聖蹟桜ヶ丘駅から徒歩約5分の市立健康センターの4階にあり、現在5名の職員で運営しています。平成27年度末時点での登録者は206名(知的51%、精神36%、身体12%、手帳なし1%)で、併設する同法人運営の地域活動支援センターと協働し、障がいをお持ちの方々への支援を総合的に行っています。

就労支援センターの支援は、大きく分けて「就職前の職業準備支援」と「就職後の定着支援」の2つがあり、その約7割を定着支援が占めています。

職業準備支援では本人の就労意欲、生活状況、作業能力、障害特性、働き方の希望等の情報を元に、求人している企業とのジョブマッチングを行います。履歴書作成、面接練習の支援も行います。

定着支援では、企業訪問や面談、プログラムを中心に、就労の安定・定着を支援しています。会社を訪問して、課題の共有や問題解決に当たります。ご本人との面談では、就労にまつわる様々な相談に応じています。また、就労している知的障がい者を対象とした「生活支援プログラム」も行っています。

島田療育センターとは地域の機関として、それぞれの役割の中で連携してきました。その中で昨年2月に行われた当法人の講演会の講師として、心理判定員の山本秀二先生に講演をお願いしたことから更に関係が深まりました。私達が関わっているのは成人した障がいのある方たちではありますが、今回は子どもの行動の意味の捉え方、それに対する接し方等をお話していただきました。多くの方々に参加いただきましたが、シリーズ化してほしいという声もあるくらい好評でした。大人も子どもも同じ人間です。誰も子どもの頃があり、山本先生のお話は成人の支援をしている私達にも必要な視点であり、勉強になりました。今後もお互いの専門性を活かしながら、協力し合える関係を築いていきたいと考えています。



今回ご依頼いただいた講義(心理士講師派遣)の様子

心理相談室 第10回 講演会

読み書きに困難さのある 子どもの理解と支援

発達支援センターでは、地域の皆さんと発達障害に関する理解を深めていくことを目的に、年一回講演会を実施しています。第10回となる今回は平成27年2月28日(土)に『読み書きに困難さのある子どもの理解と支援』と題して、常葉大学教育学部の後藤隆章先生をお招きしてご講演いただきました。印象深かったお話を中心にいくつかご紹介いたします。

講演の前半で後藤先生は、近年教育の現場などで学習に困難さがあるお子さんを指す時に使われる“LD”という概念について、“Learning Difficulties:学習困難”“Learning Disabilities:学習障害”ではなく、“Learning Differences:学び方が違う人たち”と捉えていく考え方を紹介してくださいました。私たちは、そもそも色々な考え方や情報の捉え方をしているとのことで、例としてフロアの参加者で先生が提示した電話番号を覚えるワークを行いました。すると、数字の暗記1つをとっても、目で見て覚える派、数字を復唱して耳で覚える派などの



後藤隆章先生

多数派、語呂合わせで意味づけて覚える派などの少数派と様々なタイプがいました。「世の中は多数の人にとって便利なシステムが主流になっていくが、それは少数派の人にとっては不便な場合がある。」ということでした。そして、「少数派の情報の捉え方や考え方の癖を持つ

講演会 会場の様子

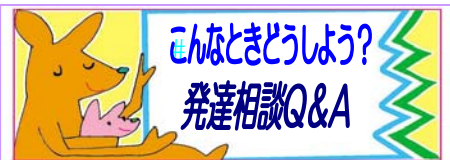


人＝集団場面で学習に困難さをもつお子さん」であり、「考え方の癖に応じた学習スタイルと一緒に見つけていく」ことが重要であるとのことでした。実際にやってみると、なるほど！と納得のお話でした。

後半では、具体的な教材の紹介に加え、VTRで実際の指導場面を見せていただきました。指導前と指導後のお子さんの成長の様子が感じられ、お子さんに合った教材・学習方法の大切を痛感しました。後藤先生が繰り返し強調されていたことは、“勉強はできなくてもいい”という考えもあるが、お子さんに合った学習は“努力したらできた”といったお子さんの自信や自己肯定感につながり、その子の人格形成においても大切な要素であるとのことでした。“わかった”が増えると、勉強をする学校がもっと楽しくなるとのことでした。

後藤先生は時にユーモアを交えてお話してください、会場からは笑いが起こることもしばしばであったという間の2時間でした。今後も、ぜひこうした有意義な講演会を企画していきたいと思えます。

(心理判定員 増富 真耶)



こんなときどうしよう?
発達相談Q&A

Q

ことばが遅れていると言われました。
家でどんな訓練をしたらいいですか？



A

カードや絵本で「りんご」とことばを教えて、「りんご」と言えるようになって、本当の意味で「りんご」を知っているとは言えません。ことばを獲得し広げていくためには、実際に見て、聞いて、触れて、嗅いで、味わって、そのことばが表すものが何たるかを学ぶことも大切です。生活の中にはその機会がたくさんあります。例えばスーパーでのお買い物。小さい子を連れての買い物はひと苦労ですが、もし、少しだけ時間が取ってあげられたら、「りんご取ってきて」とりんごを探して手に取らせてあげることや、りんごを目の前に、「丸いね」「赤いね」「果物だね」など、りんごに関係することばに触れる機会を作ってあげましょう。「こっちは梨だね、りんごに似てるね」「いちごも赤いね、同じだね」等、りんご一つでお子さんといろんな話ができます。おうちに帰って「洗おうね」「包丁で切るね」「中は白いね」「美味しいね」とりんごを食べる時間や気持ちを大人と共有することもできます。そんな楽しい経験をしたら、「りんご」ということばも、りんごに関わるたくさんの情報も記憶に刻まれ、

お子さんの中にことばが蓄えられていくのではないのでしょうか。

大事なものは、お子さんが“楽しい”と感じられることです。お子さんが小さいうちは“今”、“目の前のこと”について、“短く”、“わかりやすく”ことばを添えてあげると注目しやすいです。大人が教えたいことばではなく、お子さんが知りたいと思っていることばをかけてあげましょう。そして、大人も一緒に楽しみ、気持ちを共感することで、ことばを使って人とやり取りする力を育んでいきましょう。お子さんにとって家事仕事はとても魅力的です。負担にならない程度にぜひ、一緒にやってみせてあげてください。

(言語聴覚士 志村 みさと)



参考文献：

- 「1. 2. 3歳ことばの遅い子
ことばを育てる暮らしの中のヒント」
中川信子著 ぶどう社
- 「ことばの遅れのすべてがわかる本」
中川信子監修 講談社

おしらせ

「就学情報交換会」

～進学・進路・就労を考えるとときに理解しておきたいこと～

現職の先生方(コーディネーター等)をお招きし、進路選択・進学・就労に向けての留意点などをお話ししていただく情報交換会です。お子さんの将来について視野を広げてみませんか?

対象者: 進学などを控え、様々な理由から学校や集団に馴染めない等の困難を抱えている小学校・中学校以降のお子さん、その保護者や関係者

日時: 6/21(日) 10:00~12:30

参加費: ひと家族1000円、関係者の方1000円/人

※ 島田療育センター(多摩)で実施予定のイベントです。詳しくはホームページをご覧ください。

「ゆるゆる会」～音楽療法～

● 楽器をつかったり、音に合わせてからだをうごかしたりします。みんなで楽しく、音で遊みましょう!

● 対象者: ひとりで座ること、見ること、聴くことが苦手な小学校2年生くらいまでのお子さんとその保護者の方

● 日程: (H27)6/30(火)、7/28(火)、11/17(火)

● 時間: 10~11時

● 定員: 6組

● 参加費: ひと家族1回 1,000円(税込)

● 講師: 音楽療法士 福井友子先生

「ティチャートレニング」

近隣地域の先生方を対象に、発達障害など特別なニーズのあるお子さんへの具体的な支援方法を検討する連続講座を開催します。講座では、応用行動分析の視点からお子さんの行動を理解し、特性に合った対応方法を学びます。またグループワークで事例検討を行い、お子さんへのより良い対応について先生方で話し合いを深めていただきます。クラスのお子さんへの支援について、一緒に考えていきましょう!

皆様のご参加をお待ちしております!

日程: 8/4(火)~6(木) (3日間の連続講義です)

時間: 10~17時

申込: 7/10(金) 締切

親子であそぼう! 「ビビビグループ」

発達に心配のあるお子さんと、その保護者を対象とした親子参加型のグループです。グループを通して、お子さんとのより良い関わり方を一緒に探していきます。運動や言葉の発達をはじめ、子育てに関する専門のスタッフが、活動後の振り返りや個別でのご相談に応じ、アドバイスをさせていただきます。

対象者: 発達に心配があり、屋外での自立歩行ができる2歳以上~3年保育年少組にあたる学年未満のお子さんと、その保護者の方

日時: 第1・3・5木曜日/午前10:30~11:30

期間: ◎2期目7/2~9/3、◎3期目10/1~12/3、◎4期目(H28)1/7~3/17 *各期全6回を予定

定員: 各9~10組(5組以上のお申し込みで開始)

参加費: 1回につき3,240円(税込)

*初回は登録費5,000円、教材費540円が別途かかります。

① 地域療育等支援事業のご案内

① 外来療育等支援事業(療育相談)

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

② 施設支援一般指導事業

発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

③ 訪問療育等支援事業

地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

費用は 無料です。

窓口は「支援部」
042-374-2101(直通電話)

診察室が増えました

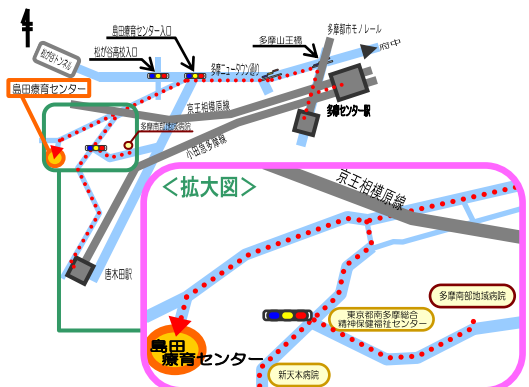
診察をお待ちの方々へ、よりスムーズな対応ができますよう、外来の診察室を一部屋増設しました。改装工事が終了し、外来担当の相談係(医療相談科)も同じフロアに常駐しておりますので、ご相談などお気軽にお声がけください。

今後とも快適にご利用いただけますよう、職員一同努めてまいります。

編集後記

日差しがまぶしい季節になりました。最近はお肌や健康を守るため、年を通して紫外線対策が必要と言われてますね。日傘や帽子、サングラス(←実は無防備なのは目!!)を着用し、こまめに日焼け止めクリームを塗り直すこと、皮膚の抵抗力を高めるためタンパク質やビタミンをしっかり摂ることが大切です。ただUV加工(後から別加工したもの)の日傘や帽子、衣類等の効果は2~3年しか持続しないので、その場合はUVカットスプレーを使うと効果が復活するそうですよ。何事もお手入れが大切なのですね(笑)。(市川)

編集 : 社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部
住所 : 〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電話 : 042-374-2071 (代表)
E-mail : info-room@shimada-ryoiku.or.jp
URL : http://www.shimada-ryoiku.or.jp



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番
乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分